

伝統文化祭 「西陣 千両ヶ辻」

今回は、今年の9月23日、上京区大宮通の今出川通～一条通周辺において開催された地域の町家や産業を生かした伝統文化祭「西陣 千両ヶ辻」をご紹介します。

伝統文化祭のきっかけ

大宮今出川通りは、江戸時代から糸屋八町（又は十町）と言われ、生糸や織物の商いを中心に千両箱が飛び交ったと伝えられていることから「千両ヶ辻」と呼ばれています。近年は、地場産業である織物業が低迷し、地域の活性化を図るために「何かやらねば」と地域の方々が協力して始まったのが伝統文化祭「西陣 千両ヶ辻」です。

織物業産地問屋の木村卯兵衛さんや呉服商「富田屋」の田中峰子さん（ニュースレター21号で紹介）らが千両ヶ辻の活性化について話をする中で、「誓文払い」（今でいうバーゲン）を地域ぐるみで行ってお客さんに還元しようということになりました。「誓文払い」にはその地域で商いをさせてもらっていることに対する感謝の意味もあり、感謝の気持ちを伝える「もてなし」についても考えようということになりました。地域には西陣の文化を伝える由緒ある個人の商家や庭園が多数残っており、これらを公開し、普段目に触れない所蔵品を見ていただくことで、一般の方々に西陣の文化をもっと良く知っていただくということになりました。

今年の伝統文化祭



今年で2回目となる伝統文化祭では、昨年に引き続き個人の商家や庭園が特別に公開されました。公開された町家の内部では貴重な西陣織の衣装や屏風、掛け軸など、一般の方にとっては普段目にする事ができないようなものも多数展示されました。また、糸屋を中心とした地域の歴史も大きな年表として商家の壁に貼り出され、多くの方が熱心に見入っていました。更に、通りでは和装小物が格安で



販売され、当日は近くにある晴明神社の例祭みこし巡行と重なったこともあり、約6000人もの市民や観光客が詰めかけました。

実行委員会事務局の南進一郎さんは、「町家には普段生活しておられる方がいますので、家の中に入ってもらうと坪庭などを見てもらうということは、本来、非常にプライベートなところに足を踏み入れられることです。そういったことに門戸を開いてもらった方々にはすごく感謝しています。『うちはたいそうなことはできませんよ』と言いながら、お祭が近くなると植木屋さんや大工さんが入って家の中からドンドン音が聞こえてくるんです（笑）」また、お祭の開催によって地域が得たものとしては、「もともと『伝統文化の掘り起こし』を目的としてこのお祭を行っています、企画・運営していく中で、地域の中でのコミュニケーションが活発になったように感じます。これは地域としても意義のあることだと思います」

今後について

伝統文化祭の実行委員長も務める木村さんは、「現在、『和の文化』が追い風ということもあり、予想以上に多くの方にお祭においていただきうれしく思います。このお祭は、この町が好きで人々が手づくりで行っていますので、ご迷惑の掛かる方もおられるかもしれませんが、地域の方々のご理解のおかげで、このような他にはないようなお祭が開催できていると思います」今後については、「これから拡大する可能性もありますが、あくまでもこのまちを愛している人に参加してもらえれば良いと思っています。個人が自由に楽しんで、家を開放してもらって千両ヶ辻の伝統を見てもらえれば良いと思っています」

地域の町家や産業だけではなく、「人を温かくもてなしたい」という気持ちも「西陣の伝統」なのだと強く感じました。地元の方々の手作りで一歩一歩着実に取り組まれる「西陣 千両ヶ辻」に今後も注目していきたいと思っています。

